

によつて作られたものと考へられる。

**ヒガシアラタニ** 東荒谷 能美郡白山下の荒谷は明治に至つて東荒谷と改稱せられた。

**ヒガシアラヤ** 東荒屋 河北郡井上庄の荒屋三邑のうち竹橋附近のものは、明治に至つて東荒屋と改稱した。

**ヒガシイチノセ** 東市瀬 河北郡湯涌郷に屬する部落。

**ヒガシイハセダイカン** 東岩瀬代官 初め越中新川郡草島に加賀藩の收納蔵があつて、御詰米奉行が支配したのを、寛文十一年東岩瀬に移して東岩瀬御代官と稱することにした。當職の初は知れぬが、寺西馬左衛門・瀧太左衛門等の名があり、寛文元年水上小兵衛、延寶七年九里平之丞が命ぜられて二人役となつたが、正徳二年五月毛利儀兵衛の命ぜられてからは一人役となつた。

**ヒガシインナイ** 東印内 鳳至郡南志見郷に屬する部落。村名由来書に、西光寺の院内に起つた故に、東院内とも東印内とも書いたが、明暦寛文の村御印には東印内とあると記する。

**ヒガシオホタ** 東太田 羽咋郡太田富永保に屬する部落。太田は、加賀藩領と土方領との混じた地であつたが、明治に至り東太田・太田に分ち、次に東太田・西太田とし、更に一の太田に合併した。

**ヒガシオホノ** 東大野 能美郡大野の内の小字。

**ヒガシオホノ** 東大野 鳳至郡下町野郷の大野は、明治中に至り東大野と改稱した。

**ヒガシオホマチ** 東大町 鳳至郡本郷に屬し、もと大町というたが、明治中東大町と改

めた。

**ヒガシオンキヨタク** 東御居宅 前田齊敬が居る所の本郷邸内の居館を東御居宅と稱した。後慶寧の天保十二年以降居る所も亦東御居宅というた。

**ヒガシカガツメ** 東蚊ヶ爪 河北郡蚊月庄に屬する部落。もと東加賀爪と書し、淺野川を隔て石川郡西加賀爪があつたが、元祿十五年十二月二日東西共に蚊ヶ爪と書することにした。龜尾記に、東蚊ヶ爪に中比高木五郎といふ郷士があつて、近邑を御領したとある。

**ヒガシカタシンペイ** 東方眞平 大聖寺藩士。潛の子。諱は履、字は天澤。通稱元吉、後眞平。芝山・雙岳・芝湖・五楊と號し、祿百二十石を受けた。天資豪邁、十八歳にして經世を志し、都會に出で當世の英俊を師友としようとしたが、その父母藩の法を憚つて許さなかつたから、二十歳の時金澤に赴き、林瑜の門に學び、三年を経て歸つた。然るに廿五歳の時脚疾を患ひ、且つ遊學の志益切であつた爲、京都に出で、番人吉田公均の家に寓し、治を蘭醫日野鼎齋に請ふの傍、費を賈名海屋に執り、又梁川星巖・池内陶所等を訪ひ、一年にして癒えて郷に歸つたが、匠氣人を凌ぐを以て時輩の爲に排せられて用ひられず、嘉永六年四十一歳で初めて藩學の助教に任ぜられた。次いで安政中江戸に遊び、安積良齋に従ひ、羽倉蓬翁・大槻盤溪・大沼枕山・鴛津殺堂等と交り、明治維新の後藩の議事役・會計主司等に任ぜられ、政治經濟・殖産興業の事一として與らぬはなかつたが、三年三月藩廳改革の議のあつた時、その意見容れられざるを以て、即日樂山の湖畔に徙り、詩歌番曲

を娯とした。時に新政草創に屬し、諸藩爭うて人才を求めたので、金澤藩は十二月眞平を招いてその學事を管せしめたが、後辭して再び樂山に歸り、十二年一月廿七日六十七歳を以て歿した。著す所皇統錄・君鑑・勳農文・聖城談異・芝山遺稿・雙岳詩草等がある。

**ヒガシカタセ** 東方潛 大聖寺藩士。屯の子。初諱由則又は明。通稱字左衛門。字は叔龍。蒙齋・蒙軒・東城・啞蒙老人・偏枯等の號がある。文化九年家を繼ぎ、祿百二十石を受け、頭分に班し、安政三年致仕、文久元年九月十一日七十五歳で歿した。潛、詩を大窪詩佛に質し、書を市河米庵に學んで共に之を能くした。

**ヒガシカタトン** 東方屯 大聖寺藩士。諱は由賢、又は望。通稱字左衛門。字は滿卿。祖山と號した。采地百二十石。幼にして聰敏讀書を好み、少時江戸に役して山本北山の門に入つたが、北山は之を稱して君子人と評した。明和七年家督を襲ぎ、前田利道・利精に仕へ、寛政十二年名を屯と改め、文化九年致仕、十年六月廿五日六十六歳で歿した。祖山筆記・刑法原始録の著がある。

**ヒガシグチ** 東口 江沼郡瀧原の内の小字。

**ヒガシゴゼン** 東御前 前田慶寧の夫人有馬氏を指して東御前というた。慶寧の東御居宅に居たからである。

**ヒガシゴボウマチ** 東御坊町 金澤の舊町名。元祿九年の地子町肝煎裁許附に、東御坊町とある。此の町内は東本願寺末寺の前であつたため、俗に東末寺町又は末寺前と呼んだのを、明治四年四月戸籍編成の際横安江町と

改めた。

**ヒガシジマ** 東島 能美郡白山下の島(今桑島)の内の小字。

**ヒガシソウガハ** 東相川 ヒガシソウガハ 石川郡相川の内の小字。

**ヒガシタカヤマ** 東高山 能美郡白峰のうち市瀬の北方に在る山。高さ一三三二米。地質係羅系。

**ヒガシタニ** 東谷 鳳至郡十郎原の内の小字。

**ヒガシタニウチイシ** 東谷内石 羽咋郡大福寺から産する石材。殆ど陶土化した石英粗面岩質凝灰岩で、灰白色を呈し、硬くして脆い。

**ヒガシタフダ** 東任田 能美郡板津郷に屬する部落。

**ヒガシナカノタニ** 東中谷 ヒガシナカノタニ 鳳至郡諸橋郷に屬する中谷は、明治に至つて東中谷と改められた。

**ヒガシナカヲ** 東中尾 鳳至郡河原田郷に屬する中尾を、明治中に至り東中尾と改稱した。

**ヒガシノ** 東野 羽咋郡押水中庄に屬する部落。北陸七國志などに吾妻野とあつて、もとアツマノと唱へたのを、後世ヒガシノに轉じたものであるといふ。

**ヒガシノオンカタ** 東ノ御方 前田利家の夫人をいうた。金澤城東丸に居館したからである。慶長二年大覺寺宮空性法親王の筆に成る白山比咩神社の額の裏書に、『當社再興加賀大納言豐實朝臣利家卿・同東御方爲子孫繁榮也。』といふもの即ち是である。甫庵太閤記慶長三年醍醐御花見御與次第に『六番東御方

# ヒカ